

## 中近東圏 オマーン国

### 背景：

1995年以降、国際耕種はネジド地方農業開発やマングローブ植林計画における開発調査や専門家派遣事業を通して、オマーン国とは深い関わりを保っている。同国南部のゾファール州の山岳地域は、アラビア半島に位置しながらインド洋からのモンスーンの影響を受けて豊かな自然植生で覆われている。しかし近年、過放牧などの影響もあり、次第に植生の劣化が起こってきている。こうした山岳部における植生の劣化が、沿岸部におけるマングローブ林の生育に悪影響を与えているとも考えられている。そこで、この山岳部の環境修復・植生回復を地域住民の活動とリンクした形で推進するための交流や情報収集のために、現地連絡員を配置するなどしてマスカット基金による活動を開始した。

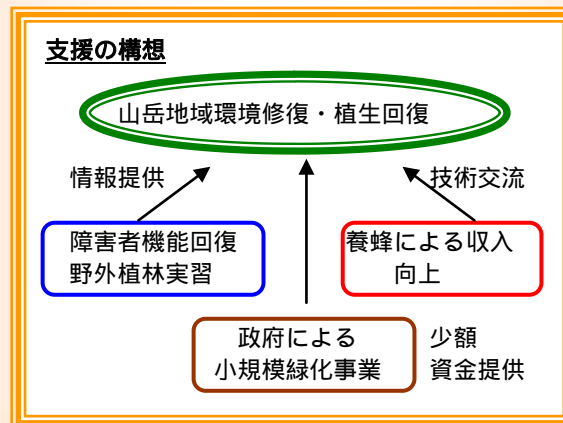
### 活動：

#### 2001年5月

1997年以降の活動を基に、マスカット基金による活動をより活性化するために現地調査を行った。

現段階で、以下のような活動を開始している。

- 農漁業省内・収入改善事業、女性グループとの交流：女性の社会進出と収入向上を図るため、養蜂を取り入れた活動を行っているグループに対し、技術情報の提供を行っている。
- 身障者グループとの交流：サララ市にある身障者グループと交流を持ちながら、子供達の教育や機能回復についての情報提供を行おうとしている。
- 山岳地域での植生回復促進支援：農漁業総局が山岳部で実施している植生回復の事業としての小区画緑化事業に資金提供をしている。



養蜂技術講習（資料から）



障害者支援センター